～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°63　アレックス・フォワヤール

生産地方：ボジョレー

新着ワイン 3 種類♪

AC ボジョレー・ヴィラージュ 2021（赤）

2021 年は久々に涼しいミレジムだった。ブドウは晩熟で、春の寒波、長雨、病気が猛威を振るう厳しい年だったにもかかわらず、収量はほとんど落ちなかった。出来上がったワインは、前年の太陽に恵まれた力強い味わいとは真逆の、涼しい年ならではの酸味とジューシーな果実味が魅力的な味わいに仕上がっている！ブドウのフェノールがしっかりと熟すまで収穫を待っただけあり、フレッシュなイチゴや赤いバラの高貴な香りが華やか！ビロードの膜を張ったような滑らかな果実味に溶け込むジンジャーのようなスパイシーさ、滋味深いミネラルも心地よく、今飲むワインとしては非常に完成度が高い！ちなみにアレックスの奥さんファニーのマリアージュのおススメはモンドールチーズ♪

AC ブルイィ 2020（赤）

2020 年は、収穫日が 8 月 26 日と前年より 4 週間早く、過去一番収穫の早いミレジムでありながら、ブドウの潜在アルコール度数は 14.5%を優に超えていた。前年同様ワインにボリュームがあるので、アルコールの角を取るために熟成は 70%樽、セメントタンク 30%と樽の割合を増やした。出来上がったワインは太陽に恵まれた年を象徴するような骨格のある味わいに仕上がっている！ガメイというよりもむしろ南の熟したグルナッシュを想像させる果実のボリューム感、そして、それを支える鉱物的なミネラルと酸にメリハリがあり、まるで高級なシャトーヌフ・デュ・パプを飲んでいるみたい！ファニー曰く、今飲むのであればマリアージュは羊肉の料理と♪そうでなければ、あと数年寝かせてぜひ熟成を楽しんでほしいとのこと！

AC コート・ド・ブルイィ 2020（赤）

2020 年は収穫日が 9 月 1 日と、収穫の最も早かった 2017 年よりもさらにブドウが早熟だった。また、この年は太陽に恵まれた年でもあり、ブルイィと同じく北向きの斜面に畑があるにもかかわらず潜在アルコール度数は 14%に達した。出来上がったワインは 2019 年とキャラクターが良く似た、太陽に恵まれた当たり年のブルゴーニュのピノノワールを彷彿させる！アルコールのボリュームがありながらも酒質は滑らかかつ果実味が艶やかで色気があり、滋味深いミネラルが味わいに深みを与える！アフターの骨格を形成するキュートな酸と上品なタンニンはまさに上質なピノノワールそのもの！アレックス曰く、ブルイィ同様 2020 年は長熟タイプのワインなので、カラフして 1 時間くらい置いてからサービスするか、もしくはあと数年寝かせることでさらに色気が増すこと間違いなしとのこと！

ミレジム情報　当主アレックス・フォワイヤールのコメント

2020 年は、ブドウが豊作で超早熟の年。アレックスのドメーヌはもちろん、父親のジャンもドメーヌ史上一番収穫の開始が早い歴史的なミレジムだった。冬のスタートは暖冬で雨が多かった。春になると雨はピタリと止み、3 月から 5 月後半まで乾燥した天気が続いた。この年は、春の遅霜がなかったことからブドウの成長スピードが驚くほど早く、5 月終わりにはすでにほとんどの開花が終わっていた。6 月には適度な雨の降る理想的な天候が続き、6 月終わりの時点でブドウの成長サイクルは例年よりも 3～4 週間早かった。7 月後半から 8 月初めまで気温が連日 35℃近くまで上がる猛暑が続いたが、幸いこの年は、日中と夜の気温に大きな寒暖の差があり、ブドウの成長スピードも酸も落ちることがなかった。さらに、8 月 21 日にまとまった雨が降ってくれたおかげでブドウは一気に果汁を蓄え、豊作のまま収穫を終えることができた。

2021 年は、日照量が少なく雨の多い涼しい年だった。冬は暖かく乾燥していた。ブドウの芽吹きもいつもより早かった。だが、4 月 8 日未明に突然気温零下を下回る寒波が降りた。幸い、ブルイィもコート・ド・ブルイィもほとんど霜の被害はなかったが、この寒波の影響によりブドウの成長に一気にブレーキがかかってしまった。その後も雨の多い不安定な天候が続き、ブドウの成長サイクルは 3～4 週間ほど遅れた。5 月終わりから一時的に天気が回復。開花終わりまで晴天が続いたおかげで、開花は全て順調に終わった。ただ、4 月の霜の影響もあり、開花はまちまちで、始まりから終わりまで 10 日ほど要した。6 月終わりから再び雨が多く気温の上がらない不安定な天候が続き、ミルデューが猛威を振るった。ミルデューはボルドー液でどうにか抑えることができたが、7 月も雨が続き今度は黒痘病が繁殖し始め対処に苦労した。この病気の猛威により収量は 10%～30%ほど減収。8 月からやっと天候が回復し始め、夏らしい暑さも戻ってきた。ミルデューと黒痘病の猛威も収まり、ブドウは遅れを取り戻すかのように一気に成熟に向かった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

去年の 9 月 11 日、恒例のジャン・フォワイヤールの収穫に参加した。2022 年はフランス中が日照りにより水不足が深刻だったが、実際ジャンのところの収穫に参加してみると、想像していた以上にブドウの房があり果汁もしっかりと詰まっていたので驚いた。ジャンが言うには、確かに 5 月以降深刻な水不足が続いたが、実際 2019 年や 2020 年のような夏の猛暑はなく昼夜の寒暖の差もあり、ブドウにとっては思ったほどストレスはなかったそうだ。また、果汁があるのは収穫直前に少量の通り雨が降ったことによるものだとのこと。10 ㎜にも満たない雨だったが、それでも乾いたブドウにとっては果汁を溜め込むのに十分だったようだ。

(写真①)アレックスの新居と新しいフルーリーの畑

午前中はジャンのモルゴン・コースレットを収穫し、次に車で向かったのは見慣れない標高のある畑…。（写真①）収穫者に聞くと、アレックスのフルーリーの畑とのこと。「えっ、アレックスがフルーリー!?」この時、初めて彼がフルーリーの畑を手に入れたことを知った。そして、写真奥の立派な建物からアレックスの奥さんのファニーが出てきてまたビックリ！彼女が言うには、アレックスは子供が生まれるのを機に 0.5ha の畑付きの物件を購入し、現在は親元を離れフルーリーに移り住んだそうだ。フルーリーを手に入れたということも驚いたが、それよりも彼がもうすぐ父親になるということを知りさらに驚き、一度に 3 回驚かされた感じだ。特にアレックスが中学生の時から知っていて、彼が高校生の時に私はすでに毎年ジャンの収穫に参加していたので、もうすぐ彼が父親になるという話を聞いて、時の経つ早さに何か感慨深い思いが込み上げてきた。

さて、話しはアレックスの新しい畑に戻して…これはフルーリーのブドウの写真。（写真②）ジャンのコースレットに比べると房の数が少なく大きさもいく分小ぶりだ。ファニーが言うには、このフルーリーの畑は、購入前は 1 年間ジャングルのように放置されっぱなしの状態にあり、購入時はまずブドウの木を整えるのが大変だったとのこと。さらに、この畑は以前農薬と化学肥料でブドウが育てられたということもあり、今は急に化学肥料というドーピングが無くなった Crise biologique（栄養素が無くなるショックで一時的に収量が減る現象）のまだ初期段階にあり、ビオとして適正な収量に戻すまでにあと 3 年～4 年はかかるとのことだ。

(写真②)房がまだ小さくコンパクトなフルーリーのブドウ

(写真③)ビオに転換したばかりで雑草が生い茂っている様子

なるほど、確かにまわりを見渡すと細長い棒状のエリジェロンと呼ばれる雑草が畑の至る所に生えている。(写真③）エリジェロンとはキク科の植物で除草剤に対する耐性が強く、植物の多様性のない畑や除草剤漬けにより耕されていない畑で見られる植物で、放置していると写真のように大量発生してしまうのが特徴だ。厄介なのは、日照りの時は根が真っ直ぐ深く伸び水分を吸い上げるため、ブドウの木の水不足を助長し、逆に雨の多い時はたくさん生えることでブドウの木のまわりに湿気をこもらせ、病気を誘発する原因となってしまう。「このエリジェロンを除去する有効な手段は、唯一土起こしを繰り返し土壌の品質改良に努めること。まだ購入したばかりなのでこれから徐々に時間をかけて土壌を変えて行けば問題ない」と彼女は明るく説明してくれた。また一方で、この畑のアドバンテージについて彼女は、標高が 400m と高く涼しいこと、そして標高の低いフルーリーの土壌に比べて粘土質の表層が薄く、花崗岩が大部分を占めているので、出来上がるワインは清涼感のあるエレガントな味わいが期待できると説明してくれた。確かに、エリジェロンは栽培的に厄介かもしれないが、ブドウの病気ではないのでワインの品質的には全く問題ないだろう。収量もイイ感じで少ないし収穫したブドウもきれいだし、センスの良いアレックスのことだから間違いなく素晴らしいワインに仕上げてくるだろう！

収穫で訪問してから約 1 ヶ月後無事ファニーとアレックスの子供が生まれた。名前はレオン。2022 年はアレックスの子供の生まれ年となるミレジムだからこそ彼もいつも以上に気合を入れてワインをつくってくるに違いない！自分も収穫に係わったという特別な思いもあるが、とにかくアレックスの本気が集約されたファースト・ヴィンテージのフルーリーが早く飲んでみたいと思う今日この頃だ！

（2022.9.10.＆2022.11.8 ドメーヌ突撃訪問より）

※弊社ＨＰ「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ